

『説文解字繫傳』 諸版小篆対比表について

広島大学総合科学研究科 鈴木俊哉

本対比表は、論文「四庫全書本『説文解字繫傳』に見える小篆異体字」[1]の中で、紙幅の制限のため含めることができなかつた『説文解字繫傳』の小篆対比表の全体である。以下の資料から切り出したものである。

- 汲古閣通行本説文解字(毛 5、京都大学所蔵本による)
- 『説文解字繫傳』四庫全書文淵閣本(淵、浙江大学の InternetArchive 寄贈データによる) 文献[1]で解説したように、InternetArchive 寄贈データに少なくとも 3 頁分(K02755～K02760, K07192～K07203, K08353～K08358)の脱落がある。この部分については台湾商務印書館の縮印本により補ったため、InternetArchive へのハイパーリンクが無い。
- 同文津閣本(津、商務印書館の縮印本による。第 2.0 版より追加)
- 同汪啓淑本(汪、東北大学所蔵本、教養 821-99 による) 文献[2]で解説されるように、東北大所蔵の汪啓淑本には脱葉があり、本対比表ではそれらの葉にあった小篆は抜けている。詳細は別途機関リポジトリで公開する国立公文書館所蔵本で確認されたい。
- 同述古堂本(述、四部叢刊重印影印本による)
- 同祁雋藻本(祁、道光 19 年本の華文書局影印本による)

コメントの冒頭にある種別(T2～T5)は以下を意味する。ただし、第 2.0 版でのコメントは第 1.1 版のものと同じで、文津閣本の状況は反映していない。これを含めたコメントは将来の版での改訂にゆずりたい。

T2: 上記論文[1]の表 2 に含まれているもの(別字に見えるレベルで違うもの)

T3: 上記論文[1]の表 3 に含まれているもの(部品数が異なるもの)

T4: 上記論文[1]の表 4 に含まれているもの(部品数は同じだが構造が異なるもの)

T5: 上記論文[1]で言及していないもの(T2～T4 に比べ、差が小さいため)

謝辞

本資料の作成にあたり、科研費課題番号 16K004600A, 19K12716 の補助を受けています。本資料の作成は東ヶ崎祐一氏の知見をきっかけとして始まったもので、東ヶ崎氏が東北大所蔵の汪啓淑本のマイクロフィルム撮影を行っていなければこの資料は作成できませんでした。当該フィルムに由来するデータの公開を許諾頂いた東北大学附属図書館の皆さまに改めて感謝致します(受付 No.30-168)。

参考文献

- [1] 鈴木俊哉: 「四庫全書本『説文解字繫傳』に見える小篆異体字」、広島大学大学院総合科学研究科紀要. II, 環境科学研究 (13)、p.65-95 (2018), <http://doi.org/10.15027/47118>
- [2] 東ヶ崎祐一: 「『説文解字繫傳』反切校勘記 (1) —三本異同考・上—」、東北大学言語学論集 (17)、 p.111-137 (2008).

変更履歴

- 第 2.0 版 (2019-08-23) 文津閣本の画像を追加しました。文淵閣本脱落部分を補いました。
- 第 1.1 版 (2018-11-30) 公開しました。